高等学校の修学旅行——最新リポート

社会や自然と向き合う中で

東京都立田無工業高等学校
東北・北海道　3泊4日
16年5月　実施

岩手県宮古市の田老地区を訪問。東日本大震災の被害、復興の状況などを学んだ

樋口敦教諭

語り部、遺構で震災学習
現場体験、防災に生かす

津波の被害を後世に伝える震災遺構として保存されている「たろう観光ホテル」を見学

車両を貸し切りにして行う三陸鉄道の「震災学習列車」プログラムを活用

三陸鉄道に乗車し、震災当時の状況や復興について説明を受けた

語り部たちにグループごとに話を聞いた。生徒からも質問が出ていた

東京都西東京市の都立田無工業高等学校（前田平作校長）は、機械科、建築科、都市工学科の3科を設置している。「モノ・イエ・マチで未来を創る！」をキャッチコピーに、工業に関する知識や技術はもとより、日本の将来を担う資質を身につけた人材の育成を目指している。

充実した実習設備、資格取得の支援、企業の現場で就業体験や長期就業訓練を行う職業教育「デュアルシステム」などが同校の特色。2016年度には「高校生ものづくりコンテスト」全国大会の測量部門で準優勝という成果も上げた。卒業生の約8割が技術系の企業などに就職し、約2割が理工系の大学などに進学している。

修学旅行は、学年の担任教諭を中心に教育方針に沿って学習目的や旅行先を決定している。16年度は5月24～27日の3泊4日の日程で実施され、3年生145人が参加した。行き先は東北・北海道方面。

テーマには、北東北や函館の自然や文化、歴史、ものづくりを体験する学習に加え、東日本大震災の被災地を訪れる震災学習を設定した。震災の被災地を訪れ、防災、復興を学ぶ修学旅行は、同校としては初めてだった。

震災学習を修学旅行の目的に設定した理由の一つは、12年度に東京都教育委員会から「防災教育推進校」に指定されたこと。同校では、災害発生を想定してすべての都立高校で実施されている宿泊防災訓練に加えて、防災活動の企画立案、消火・救護訓練などに取り組んできたことから、被災地への訪問を防災教育の〝総仕上げ〟にも位置づけた。

修学旅行の実施を前に、震災学習の狙いについて樋口敦教諭は「報道などを通じて震災に触れてきた生徒たちは、これまでの防災教育の成果もあり、震災学習の意図するところは理解できていた岩手県宮古市の田老地区を訪問した。震災を後世に伝える遺構として保存されている「たろう観光ホテル」では、ガイドの説明を受けたほか、田老地区に津波が襲来する震災当時の様子を撮影した映像を視聴した。防潮堤や復興が進む街並みなども見学。宮古市内のホテルでは、震災を体験した「語り部」である地域住民たちに話を聞いた。

三陸鉄道（本社・宮古市）が実施している車両を貸し切りにして行う「震災学習列車」のプログラムも活用した。北リアス線を走る列車の車窓から沿岸の様子を見学しながら、震災を体験したガイドに発生時の状況や復興への取り組みを聞いた。

たろう観光ホテルでは、津波が街に押し寄せる映像を一言も発せずに見つめていた生徒たち。6、7人のグループごとにテーブルを囲んだ語り部の講話では、仮設住宅で暮らす住民、復興に取り組む市役所の職員などの話に聞き入り、生徒の側からも震災当時の様子、被災者の思いなどについて質問が出ていたという。

「生徒たちは震災学習の目的を理解できていたものの、発生から約5年という月日が経過していたことから、旅行前には『今になって行くのか』という声も一部にはあった。震災への関心の低下や記憶の風化といった社会問題がある中で、そういう声がある『今』だからこそ、現地を訪れる価値があったのではないか。現地での生徒たちの様子を見ると、自分の目と耳、足で現場を体験できたことは、彼らにとって重要な意味を持ったはず」（樋口教諭）。

修学旅行で被災地を訪れた生徒たちはこの春、高校を卒業し、それぞれの進路へと進んでいった。樋口教諭は「将来遭遇するかもしれない災害に対してどう行動するのか。あるいは、技術系の仕事や大学に進む中で、災害対策や復旧、復興にどう関わるのか。修学旅行の体験を思い起こしてもらえれば」と話している。

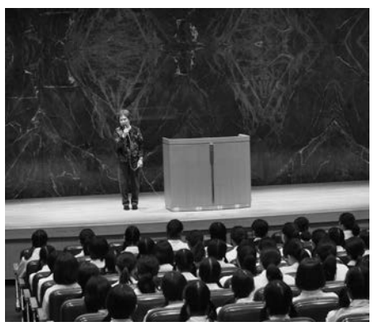
山脇学園中学校・高等学校
九州、沖縄　4泊5日
16年5月　実施

留学生と平和について意見を交わすGVSプログラム

中田成昭教諭

アジアの平和への貢献
「交流」で一歩動き出す

GVSプログラムでの平和プレゼンテーション


被爆者の語り部から話しを聞く平和講話

がちゆんフィールドワークでは米軍基地などを見て回った

大度海岸でのイノー観察

東京・赤坂に校舎を構える山脇学園中学校・高等学校（山﨑元男校長）は、1903年に山脇玄、房子夫妻によって設立された女子校。山脇玄氏は日本で初めて貴族院で婦人の参政権を唱えた。山脇房子氏は英語での授業を行うなど先進的な教育を取り入れた。同校は、そうした山脇夫妻の意思を引き継ぎ、国際社会で活躍できる女性のリーダーを育てることを教育方針とする。

校舎で特徴的なのが、外国の町並みを模した施設「イングリッシュアイランド」だ。そこでは英語を使って会話するというルールを中学1年の時から課している。修学旅行を担当する統合型教育部長の中田成昭教諭は、「そうした教育を行っていることもあって、外国人と意見を交わす取り組みを修学旅行に入れている」と話す。

同校は、高校2年生で実施する修学旅行を校外学習の集大成となる機会と位置付けている。校外学習では、さまざまなフィールドに出かけ、「現地ならではの自然や歴史的な遺産に直接触れる体験」「現地の人々との交流」「仲間との協働作業」の三つの体験を通して、未知の課題へのチャレンジ精神を養成する。修学旅行は、今までの校外学習でのさまざまなプログラムで培ってきたコミュニケーション能力とリーダーシップを発揮し、未来の世界の平和に貢献する精神と姿勢を身につけるのが目的だ。

昨年の修学旅行は「私たちの世代が築く未来のアジアの平和」をテーマとして5月9～13日の4泊5日で実施した。文系3クラス126人は九州国立博物館などの見学や唐津焼絵付け体験も行ったが、柱は平和学習と「GVSプログラム」の二つだ。

長崎での平和学習は、原爆資料館や平和公園、爆心地の見学など。なかでもメインは原爆資料館での被爆体験講話だ。中田教諭は「被爆された方の話を聞いてその人に身を寄せてほしいという意図もあるが、『かわいそう』『原爆を落とした人は悪い』といった感情が生まれるだけで終わってはいけない。そういう悲惨な出来事も過去にはあったが、『これからの未来は自分たちが創る』という意識に持っていくよう指導している」と語る。

修学旅行のもう一つの柱であるGVSプログラムは、立命館アジア太平洋大学（大分県別府市）の外国人留学生たちと生徒が「平和」について英語で意見を交わした。

「日本人と異なる価値観や文化を尊重したコミュニケーションが求められる。苦手意識を持っていたが、当日に会ってみて留学生と打ち解けられたという生徒も多かった」と中田教諭。GVSプログラムについては多くの生徒が充実感を覚えていたという。

一方、理系3クラス101人は、文系クラスとほぼ同様に長崎で平和学習を行った後、沖縄県に移動。平和祈念公園・資料館、ひめゆり祈念資料館を見学した。

また、琉球大学などの大学生に案内され、普天間基地や米軍ヘリ墜落現場など宜野湾市周辺を見て回る「がちゆんフィールドワーク」を実施。大学生たちと沖縄での戦争や米軍基地問題について「がち（本気）ゆん（話す）し、地元の人には基地の賛否なども聞いた。

このほか、環境問題を解決するための人間と自然の共生について考察を深めることを目的に、大度海岸で「イノー（礁池）観察」も行った。異文化が交わる要衝の地であったのも沖縄を選んだ理由で、首里城見学やエイサー観賞も盛り込んだ。

文系クラス、理系クラスともに「私たちの世代が築く未来のアジアの平和」をテーマに掲げた昨年の修学旅行。中田教諭は次のように総括する。

「まだ学問を修めていない生徒が平和への貢献などできないという意見があるかもしれない。それでも生徒たちが一生懸命に勉強してきて、立命館アジア太平洋大学のエリート留学生たちと英語で交流したことは立派な平和貢献だと私たちは評価している。理系クラスの生徒たちも琉球大学などの大学生と一緒に語り合っているのは平和に向けて一歩動き出している」。

誘客促進の起爆剤！地元の魅力をPR！

あなたの街のハロートラベルつくりませんか

ハローキティと地域のゆるキャラをコラボさせ
キャラの活性化・育成支援も可能です。

ハロートラベルの特徴

◆ハローキティの表紙で抜群のアイキャッチ効果！
まず冊子を手に取ってもらうことが第一！

◆便利なポケットサイズ♪小さなバッグに入れても
持ち運びできるので保存性も上がります。

◆効果的な配布ポイントで観光客を誘致します♪

◆見やすいカテゴリー別カタログとクーポンや
スタンプラリーをつけることにより観光客周遊を促進！

⬆原寸サイズ　●タテ148mm×ヨコ102mmのパスポートサイズ

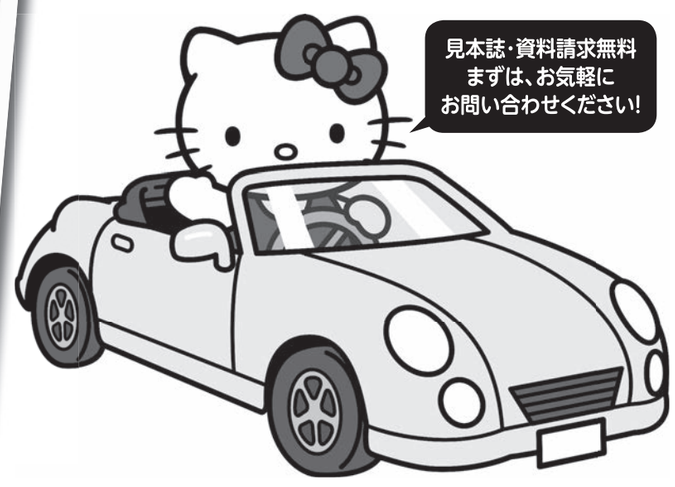
利用観光客の声

◆キティちゃんの表紙が目に飛び込んできて
思わず手に取ってしまいました。

◆コンパクトサイズで持ち運びもラクラク♪
ちょうどいい大きさだと思います。

◆旅先でどこに行ったらいいか迷った時に
たいへん参考になりました。
クーポンが付いてるのもお得で嬉しい。

各自治体様のご要望やコンセプトにより合わせ、メリットや効果のある媒体の構築と運用をご提供させていただきます。ご予算等もご相談に応じます。市町村・都道府県・広域観光圏まで対応致します。



●発行／観光経済新聞社　●お問合せ・企画制作／株式会社 元裕社 TEL 03-5623-6811　ハロートラベルは商標登録済　©1976, 2016 SANRIO CO., LTD. APPROVAL No. G552413